

川上ダムの「夢ダム」プロジェクト ～交流人口の増加による地域活性化～

脇本 瞳¹・奥野 紗江²

¹独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所 経理課 (〒518-0294三重県伊賀市阿保251)

²独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所 総務課 (〒518-0294三重県伊賀市阿保251) .

川上ダムを地域活性化に役立てていただくための取組として平成31年4月より伊賀市役所、伊賀市商工会、青山ハーモニー・フォレスト、伊賀上野観光協会及び川上ダム建設所メンバーを中心とした「川上ダム地域連携プロジェクトチーム」を発足し活動している。

地域の方々と一緒にダムを活用した地域振興について話し合いを重ね、建設中ならではの「今しか出来ない」と、「将来の観光開発に向けたフラグ」をキーワードに、川上ダムのイベント等を協働して企画してきた。

本稿では、管理移行後を見据えた地域活動の紹介に加え、交流人口の増加がもたらす地域活性化について、令和2年度に行った川上ダム「夢ダム」プロジェクト等を中心に報告する。

キーワード 地域連携、持続可能な取組、地域活性化、日本一「夢」の貯まるダム

1. はじめに

川上ダム建設所では、地域とダム事業者との更なる協力関係を築き、川上ダムを地域振興に役立てるためのアイデアや、それを実現するための方策を一緒に考え、共に協力して実行する、「川上ダム地域連携プロジェクトチーム」(以下「地域連携PT」という。)を平成31年4月に発足した。月1回の会議では参加組織それぞれの事情や立場を尊重し、互いにサポートし、協力、連携することで目的の実現を目指した。

令和元年度までの活動実績としては、ダムサイト右岸展望台(WELCOME川上ダム観眺台(みてちょうだい))を広報拠点とするために併設された情報館内の展示施設の整備を行った。また、毎月開催している川上ダム工事現場見学会で、見学会後にダムカレーを食べたいとの声が上がっていたが、川上ダムがある青山地域にはダムカレーを販売している店舗がないため、地域連携PTで開発し、阿保西部区長まちづくり会の皆様の協力により、同会が運営するサロン「いっぷくしてだぁ〜こ」での提供が実現した(図-1)。さらに、ダムツーリズムの推進として商工会主催のバスツアーを開催し、令和元年12月には、ダムナイトツアーの開催に向けた戦略を立てるため、地域連携PTの関係者を中心に「川上ダムナイトイベントを考える会」を立ち上げ、ナイトイベントの試行を行った。



図-1 伊賀青山川上ダムカレー

2. 川上ダムの「夢ダム」プロジェクト

(1) プロジェクトの概要と実施までの経緯

令和2年1月の会議で、ダム堤体のコンクリート打設の最盛期を迎えようとしていたこともあり、高い集客効果が見込まれたため、地域の方から「もっと大きいことがしたい」と強い要望があった。ナイトイベントの試行が無事に終わられた事もあり、令和2年5月の開催を目標に地域連携PT主催の「川上ダムナイトイベント」を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大によりイベントの中止は勿論、地域連携PTの会議もできず、約4ヶ月間、何も出来ない状態が続いた。その後、県をまたぐ移動自粛やイベント開催制限が緩和されたため、令和2年5月25日以降、会議を再開し、コロナ禍でもできるイベントを検討した。そこで令和2年7月に今しか出来ない特別なイベントとして、「メモリアルストーン」イベントを企画し「夢ダム」プロジェクトを立ち上げた。

a) 「メモリアルストーン」イベントについて

「メモリアルストーン」イベントとは、堤体に使用するコンクリート骨材にコメント等を記入するイベントである。本イベントは自身の夢を記入し、「夢」をダムの一部にする「日本一『夢』の貯まるダムづくり」というキャッチコピーとした。さらにダムの完成後においてもリピート率向上の仕掛けとして、メモリアルストーンを堤体打設前に骨材貯蔵ビンへ直接入れることで、1.5m×15mの範囲で自分の「メモリアルストーン」がダムのどこで埋設されているのかを特定出来るという全国でも初めての取組を行った。参加方法は下記の通りである。

- ①川上ダム周辺の店舗・施設等を利用し「利用証明書」を入手する（地域活性化）。
- ②川上ダム観眺台で掘削ズリを入手し、青山ハーモニー・フォレストに移動して、後に説明する「川の記憶」モニュメントの制作に参加する（事業への理解を深める）。
- ③事務手数料（200円）を支払い、骨材を入手する（高校生以下無料）。埋設位置は青山ハーモニー・フォレストのHPにて後日お知らせすることとした（持続可能な体制）。

b) 経済的な効果発現に向けた取組

青山ハーモニー・フォレストは公園、オートキャンプ場、パークゴルフ、ビオトープなど、様々な設備が整っている川上ダムの水特事業で整備された伊賀市の公共施設である。外部からの観光客を増やし、青山地域で消費活動を行ってもらうことを目標に、まずは知名度を向上させようと青山ハーモニー・フォレストをイベントの拠点とした。なお、作業場所の提供や準備などの事務が発生するため、事務手数料として200円を徴収することとした。また、利用証明書の配付については、川上ダム周辺の店舗に依頼することとし、各店舗への協力依頼やイベントの説明は商工会が行った。「夢」と「メモリアルストーン」を結びつける仕掛けとして、「メモリアルストーン」は地元の神社である「種生神社」に祈祷してもらい、願い事が叶うような仕組みにした。これらの取組により、ダム完成後においても、青山ハーモニー・フォレスト等への動線が生まれるという効果が期待でき、経済的にも活性化する仕組みになるのでないかと考える。

c) 地域の方に来て頂く取組について

地域の方に沢山参加してもらうため、伊賀市在中の方であれば、利用証明書は必要なく参加できるようにし、高校生以下は参加無料とした。

(2) オリジナルペーパークラフトの作成

「一足先にまだ見ぬ川上ダムを皆様の手で建設する」というキャッチコピーでオリジナルペーパークラフトのデータを既にHPにアップしていたが、「メモリアルストーン」イベントに併せて、埋設位置を正確に明示した『夢』ダムペーパークラフトのデータも作成し、青山ハ

ーモニー・フォレストのHPにもアップして頂いた（図-2）。



図-2 オリジナルペーパークラフト

(3) Twitter投稿について

打設位置のお知らせについては、青山ハーモニー・フォレストのHPだけでなく、毎月twitterでお知らせをすることとした。6ヶ月間でフォロワー数が176から254に増えた。

また、書いて頂いたメモリアルストーンがどのように投入されているか、骨材の投入状況の動画を作成、公表した。

(4) 「川の記憶」モニュメントの制作

ダム事業を地域活性化に利用し、「夢ダム」づくりとして大々的なPRを行うことは、水没移転者をはじめとする地域に深い思い入れをお持ちの方々にとって、複雑な感情があるのではないかと考えた。

地域に話を持ちかけたところ、水没移転者以外の方からも地元で川が流れていたという記憶を残したいとの意見が多くあり、試験湛水後にはわからなくなる前深瀬川と川上川の姿を川上ダムで掘削した石を並べて、モニュメントとして残す「川の記憶」モニュメント制作イベントを行うこととした（図-3）。このイベントも外部地域からの観光客を増やすために青山ハーモニー・フォレストを拠点とし、「あなたが参加することで「川の記憶」をおよそ1/170サイズのモニュメントとして未来に残すことができます」をキャッチフレーズとした。

施工方法やデザインについては、伊賀市青山支所に助言頂ける方を紹介してもらい、地元のアトリエを構える芸術家に留意点などを指導して頂いた。施工に当たっては、川の位置出しを職員の直営作業で、河道の溝は、地域連携PTにて、深さ30cm、幅1m、長さ20mの川を2本、人力で掘削した。



図-3 「川の記憶」モニュメント制作の様子

3 新しい観光資源の開発

これまでも青山地域の土産物販売を目的に、商品開発を行ってきたが、川上ダム関連の画像等を商品開発に使用することについて、地域連携PTの取組として進めていくことになった。ターゲット層を考えた結果、使用するデザインは、ダム好きの方と一般の方ではニーズが異なるため、大きくはその2パターンから検討することとし、設計図面風のもの、親しみやすい可愛らしいデザインのものを考えていくことにした。

(1) オリジナルトートバックの販売

描かれるイラストが議題となり、阿保や桐ヶ丘でイラスト作成等に秀でた能力を持っている方に依頼をすればより地域の特徴が出せるのではないかと考えた。商工会で、コストを含め調べてもらい、青山高原マラソンでエコバックのイラストを描かれた「パンダさん工房」に協力していただくことになった。見学者は、シニア世代の割合が大きな割合を占めており、幅広い世代に人気のあるものが良いのではないかと考えていたため、リアルなダムのイラストではなく、柔らかい雰囲気イラストとなるよう依頼した。10月中旬に販売した第1弾のトートバックは100枚を発注して、11月には完売した。価格は缶バッチとセットで1200円とした。しかし、川上ダムとわかるものが文字だけだったので、第2弾として川上ダムのイラストが入るバージョンのトートバック製作に向けて、川上ダム職員もデザイン企画に参画して調整を行った。川上ダムのイメージを持っていただくため、パンダさん工房をダム現場へ案内し、伊賀のダムをPRできるよう忍者がいるイメージにしてもらい、非常用洪水吐きや堤頂の建屋は川上ダムの特徴なので、キャラクターと被って隠れないようにして欲しいことなどを要望した。最終的には、職員が勤務するダム管理棟の位置に忍者を配置し、地元の大村神社に伝わる「要石」と「ナマズ」の伝承をモチーフに可愛らしいデザインのトートバックが完成した。第1弾は100枚の製作であったが、第2弾は500枚製作することとしトートバックのみで1200円で販売した(図4)。

また、パンダさん工房とは、イラストの著作権は商工会にて自由に使用・加工出来るよう調整し、トートバック以外の商品開発への展開をしていくことにした。



図4 オリジナルトートバック (第1弾と第2弾)

(2) ダムトーストの提供開始

伊賀青山川上ダムカレーを販売しているいっぷくしてだあ〜こで「伊賀青山川上ダムモーニングセット」の提供を開始した。ダムの形の器にトーストが添えられているのが特徴である。Twitterに投稿したところ「新しい!」などと評判が良かった。ダムの形の器は、木の細工が得意な商工会の方が手作りし、提案して頂いた(図-5)。火曜日を除く平日の10~12時の間で食べる事が出来る。



図-5 伊賀青山川上ダムモーニングセット

4. 考察

(1) 「メモリアルストーン」イベントについて

- 参加者数については下記の通りである。
10月53名, 11月68名, 12月28名, 1月17名,
2月40名, 3月108名
(参加者の合計は314名でそのうち利用証明書は45名)
- マスコミ対応について
中日新聞, 伊賀タウン情報YUU, 朝日新聞

(2) 交流人口の増加による地域活性化

「メモリアルストーン」イベントは地域活性化を目的に外部地域からの観光客を増やし、青山地域で消費活動を行ってもらうことを目標にしていたが、コロナ禍の中での開催もあって、令和2年10月から令和3年3月までの参加者数は314名、利用証明書での参加者数は45名で外部からの参加者は決して多くはない結果となった。しかし、利用証明書の配布を川上ダム周辺の店舗等に協力依頼をしたことで、イベントに協力して頂いた店舗の方から「一緒にまたやってみたい」と言われ協力者が少しずつ増えてきている。また、トートバックの販売や伊賀青山川上ダムカレーの販売を通して、観光客の方から「もっとダムグッズを販売してほしい」などの要望を頂き、地域の方が主体的となって現在もお土産開発を進めている。

このように、地道に地域活動を続けた結果、地域の方々との観光客との交流の機会が増え、地域活動への楽しみを創出したことにより、地域の方々が主体的に関わる参加型の仕組みが構築された。このような経験は、地域創生の各場面において、住民主体の地域資源を生かした

活動を実現させ、持続可能な地域づくりを可能とし、管理移行後においても、継続的に地域が主体となった活動を続けることができると考えている。

5. 「夢ダム」プロジェクトを終えて

(1) 川上ダム試験湛水前特別見学会

令和3年4月に打設完了し、「メモリアルストーン」イベントが終了したため、試験湛水前のダムを利用した新たなイベントとして、500人規模の「川上ダム試験湛水前特別見学会」を令和3年11月14日に開催した。この特別見学会では、ヘルメットを着用せず、貯水池内や天端、堤体左岸下流を見学でき、さらに商工会の提供による飲食・お土産販売を行った。飲食等の提供については、当初2店舗の予定だったが、協力者が増え5店舗に増加した。お土産の販売については、ダムグッズの試行販売として、トートバックも含めて5種類販売した。令和3年10月15日に募集を締め切り、応募者数は約1500名となった。

(2) 「今しか出来ない」から持続可能な取組へ

川上ダム「夢ダム」プロジェクトは「今しか出来ない体験」のイベントであるが、自分のメモリアルストーンが特定できるため、建設事業完了後においても川上ダムに対して「特別感」を持てるような取組にした。日本一「夢」が貯まるダムとして、リピート率の向上を目指し将来の観光開発に向けたフラグを立てた。管理移行後も川上ダムは別名「夢ダム」としてイベントや商品開発を進めていく予定である。

(3) マイクロツーリズム

近年はマイクロツーリズムという言葉が盛んに取り上げられている。マイクロツーリズムとは、自宅から1時間から2時間圏内の地元又は近隣への宿泊観光や日帰り観光のことである。「メモリアルストーン」イベントについては半分以上が伊賀市在住の方であり、特別見学会の応募も伊賀市や名張市在住の方がほとんどを占めていた。コロナ禍により、外出自粛で遠方の旅行には行きにくいけれど、どこかに出かけたいという心理から、地元を目を向けている人が多くなっており、どちらも地元の新聞を見て参加や応募される方が多かった。これからもダムを使った青山地域でしか体験出来ないことを提供し、地域の方々との交流を深められるようなイベント等も定期的に行っていきたい。

6. おわりに

地域の方々の主体性を促すことが鍵となり、地域連携PTを通じた活動で、多くの提案を実行に移し、地域の方々と協働して成功事例を積み重ねてきた。これは一時的な関係性で実現できたのではない。数年に渡る地域の

イベントのお手伝い、お祭りへの参加や草刈りなど地道な地域活動により、少しずつ信頼関係を築き、青山地域の魅力の発見と将来について模索し、地域との連携関係が築けたからこそ、実現できたのである。管理移行後も地域連携PTが掲げてきた「地域に親しまれるダムづくりと広報」と「ダムを活用した地場産業の振興」を継いでいきたい。

謝辞：伊賀市役所本庁関係課及び青山支所、伊賀市商工会及び青山支所、青山ハーモニー・フォレスト、伊賀上野観光協会並びに川上ダム職員及び地域連携プロジェクトに関わって頂いた他事務所の機構職員も含めて改めて深く感謝申し上げます。